東日本大震災の記録 ～後世に残し伝えるために～

災害に強い地域づくりを目指して

本年2回目となる防災研修会【地震災害編】を、8月25日（金）に町職員向け、26日（土）に町民向けに開催しました。

講師には、東日本大震災を経験し、復旧・復興にご尽力された岩手県下閉伊郡山田町の元危機管理室長の白土靖行さんをお招きし、震災発生当時の対応や様子について講演をしていただきました。

職員向けの講演では、震災時の経験談を交えて、災害発生時に想定される課題についてお話しいただきました。職員らは、災害時の効率的な組織体制に向け、日頃から災害時のイメージを持って訓練することの大切さなど、危機管理の心構えを学びました。

町民向けの講演では、震災直後の津波の映像や町の様子を記録した写真を用いて、当時の緊迫した状況や思いなどを振り返りながら講演いただきました。なかでも「自助」の重要性について、災害時には一人一人が「自分の命は自分で守る」という気持ちを持って逃げることの大切さを語り、聴講者ら約70名が熱心に耳を傾けました。

白土さんは、避難場所を校庭から裏山に急遽変更し、児童や教諭が助かった小学校の事例から「マニュアルにとらわれない決断が時には必要」と強調しました。

白土（しらと） 靖行（やすゆき） さん

★講師紹介★

●岩手県下閉伊郡山田町出身
●昭和58年4月 山田町役場に奉職
平成22年４月より総務課危機管理室長に就任、平成23年３月11日、東日本大震災発生時には、最前線で指揮を執った。
以後、町の復興に尽力され、令和２年３月に退職。退職後も再任用職員として後進の指導にあたる傍ら、静岡県を中心に全国で講演を行い、自身の経験を伝えている。

★山田町紹介★

●岩手県の東部に位置し、町の北・西部は宮古市、南部は大槌町と接し、東部は太平洋に面している。
●東日本大震災発生時、震度5強を観測し、6mから19mもの津波が押し寄せ、町全体が甚大な被害を受けた。